

第3章 千歳市の目指す教育

1 基本理念

2 教育の動向と求められる人間像

3 千歳市が求める教育の姿

第3章 千歳市の目指す教育

千歳市第6期総合計画では、これまでのまちづくりの足跡と時代の潮流を踏まえ、千歳市が持つ特性や資源、都市基盤などを有効に生かしながら、市民と共にまちづくりの発展を維持させていくことを基本理念とし、将来都市像「みんなで生き生き 活力創造都市 ちとせ」の実現に向けて各分野で目指すこととしています。

今回策定する「千歳市学校教育基本計画」においては、学校の教育課程[※]として行われる教育施策を推進することを目指します。

1 基本理念

「ふるさと千歳に感謝し ふるさと千歳を愛し ふるさと千歳の発展を祈り 千歳の未来を託す」

本計画では、「みんなで進める千歳のまちづくり条例」の前文^{※P80}で示された「事に当たって一致団結する」根本の精神を踏まえて、基本理念を定めます。

「ふるさと千歳に感謝し」

子どもたちが、千歳市がこれまで歩んできた道、とりわけ今日の発展の礎となる着陸場建設にあたった先人の思いにふれ、育ててくれた千歳のまちに感謝する心を育てます。

「ふるさと千歳を愛し」

子どもたちが、清流千歳川や支笏湖などの美しい自然や新千歳空港をはじめとする都市機能など、恵まれた環境の中で育ててくれた千歳のまちを慈しみ愛する心を育てます。

「ふるさと千歳の発展を祈り」

子どもたちが、今、学んでいる千歳のまちに、生涯にわたって誇りを持てるよう、このまちのさらなる発展を願う心を育てます。

「千歳の未来を託す」

私たち大人は、夢や希望を持つチャレンジ精神豊かな子どもたちが、新しいこれからの千歳市を担っていくことを願い、子どもたちの教育に力を注ぎます。

※教育課程：学校教育の目的や目標を達成するため、幼児児童生徒の心身の発達に応じ、教育内容を授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画。

2 教育の動向と求められる人間像

(1) 義務教育の目的

文部科学省は平成 20 年、学習指導要領[※]を改定し、教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力[※]」の育成を図ることとしました。「生きる力」とは、「知・徳・体」のバランスのとれた力のことであり、変化の激しいこれからの社会を生きるため、これらを確実に育てることが必要なことを示しました。

また、改正された学校教育法において、義務教育の目的を「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と明確に決めました。

(2) グローバルな時代に求められる能力

OECDは、PISA調査[※]の概念枠組みの基本となっている「キーコンピテンシー[※]（主要能力）」を示しました。この枠組みの中心にあるものは、個人が深く考え、行動することの必要性です。深く考えることには、目の状況に対して特定の定式や方法を反復継続的に当てはめることができる力だけでなく、変化に対応する力、経験から学ぶ力、批判的な立場で考え、行動する力が含まれています。この能力は、学校教育法で示した「基礎的な知識・技能の習得と課題解決力（思考力・判断力・表現力）」と重ねてとらえることができます。これからの時代に生きる子どもたちの教育を考えると、これらを基本として方向を定める必要があります。

※学習指導要領：全国どこでこの学校で教育を受けても、一定の教育水準を確保するために、各教科等の目標や内容などを文部科学省が定めているもので、教科書や学校での指導内容のもとになるもの。

※生きる力：「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」のバランスのとれた力。

・「確かな学力」：基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、様々な問題に積極的に対応し、解決する力。

・「豊かな人間性」：自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心などの豊かな人間性。

・「健康・体力」：たくましく生きるための健康や体力。

※PISA調査：Program for International Student Assessment の略。経済協力開発機構(OECD)による国際的な生徒の学習到達度調査のこと。15歳の生徒を対象に、読解力・数学知識・科学知識・問題解決を調査するもの。国際比較により教育方法を改善し標準化する観点から、生徒の成績を研究することを目的としている。

※キーコンピテンシー：人生の成功や社会の発展にとって有益、さまざまな文脈のなかでも重要な要求に対応するために必要、特定の専門家ではなくすべての個人にとって重要という性質をもつものとして選択されたものと定義し、三つのカテゴリー(①社会的・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力②多様な社会グループにおける人間関係形成能力③自律的に行動する能力)を示した。

この背景には、①変化(テクノロジーが急速かつ継続的に変化しており、これを使いこなすためには、一回習得すれば終わりというものではなく、変化への適応が必要)、②複雑性(社会は個人間の相互依存を深めつつ、より複雑化・個別化していることから、自らとは異なる文化等をもった他者との接触が増大)、③相互依存(グローバル化は新しい形の相互依存を創出。人間の行動は、個人の属する地域や国をはるかに超える経済競争や環境問題に作用される)が一層高度化する社会の進展を想定している。

3 千歳市が求める教育の姿

(1) 未来を託す

千歳市民が描いた理想に向かって、官民あげての多様な事業が繰り広げられ、近代的な都市が創り出されてきました。北の空の玄関、千歳市の発展は同時に豊かな市民生活をもたらしました。平成 20 年度に実施した「市民まちづくりアンケート」によると、千歳市の住みやすさに関しては、「住みよい」とする市民が 72.4%、これからも千歳市に住み続けたいとする市民が 78.2%を占めています。この住みよいまちづくりを今後も保ち、さらに充実発展させていかなければなりません。

しかし今日、日本は、世界に例を見ない少子高齢化社会の進行、経済や財政を巡る課題、地球温暖化そして資源や食料の枯渇などの地球規模での環境問題等、社会基盤をゆるがす課題が山積する中、将来への不安は増大しています。この中であって、私たちのまち「千歳」が持続的な発展を遂げ、豊かな市民生活を創り上げていく活力を生み出していくためには、未来を担う子どもたちに希望を託すことが重要となります。

今、未来を担う子どもたちの日常は、学校、家庭、地域を行き来しています。そこで、子どもたちはやがて来る時代を見つめ、未来へ飛び立つ準備をしていると言えます。この三つの場はそれぞれがその役割を果たしながら、連携していますが、とりわけ、同じ時代を生きる友と明日を語り、教師の導きのもとによりよい生き方を探求する学び舎への期待は特別のものがああります。ここで、私たちは、ふるさと千歳を愛し、未来の千歳ひいては日本に貢献する人材の育成を求め、千歳の未来を託す「学校教育」の理念を描くこととします。

(2) 先人に学ぶ

再度思い起こすことは、今から約百年前、原野に着陸場を造り上げた先人たちの行動、明日への希望に燃えた先人たちの魂^{※P82}の存在です。空を飛ぶ乗り物への好奇心、やがて来る航空機時代への直観的洞察、人々と志を共にする協働の精神、厳しい労働をいとわない屈強な身体、旺盛な行動力、それらが、未来を切り拓く魂となって、今日の発展するまち「千歳」の礎を築いてきたのです。

私たちは、この先人の思いと行動に学びながら、目指す学校教育の姿を探っていきたいと考えます。

最初に思い浮かぶことは、先人の「ふるさと千歳」に対する強い思いです。千歳は、農地に不向きな火山灰土ではありましたが、平坦で硬い地盤であることから飛行場建設には適していたと言えます。人々はこの強みをとらえ、明日の希望として生かしました。それは、今、この地で暮らしていることへの感謝、将来、この地に生きる人々へ何か役に立つものを残していきたいという、愛と祈りの気持ちから生まれていました。ふるさと千歳に対する強い思いが街の発展の原点となっているのです。

これら千歳の未来を切り拓いた人々に学びながら「学校教育」の姿を示すこととします。